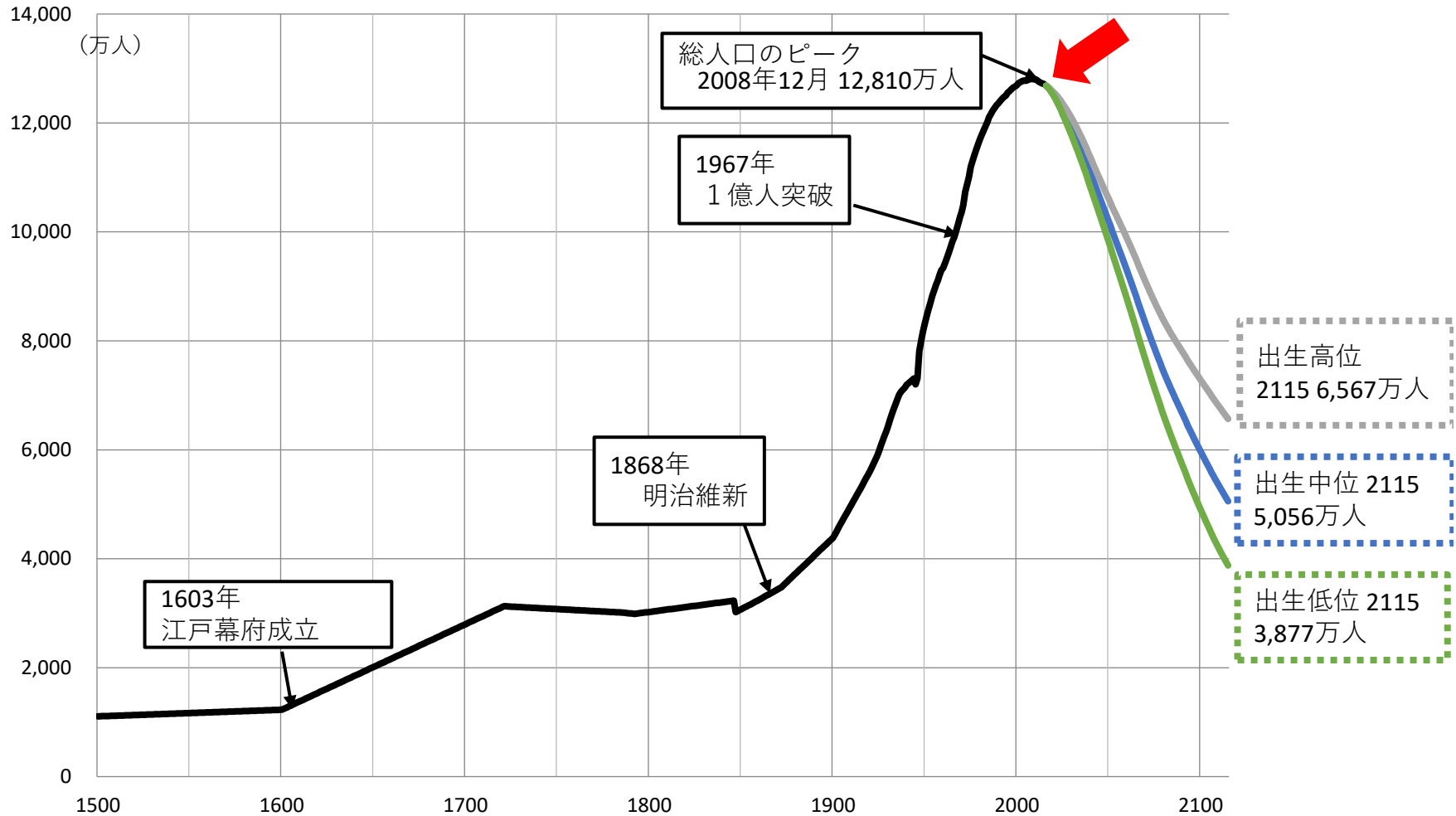


福祉のまちづくりフォーラム2025
函館市

地域どのようにつながりや支援を作っていくのか？
～福祉を福祉で完結しない～

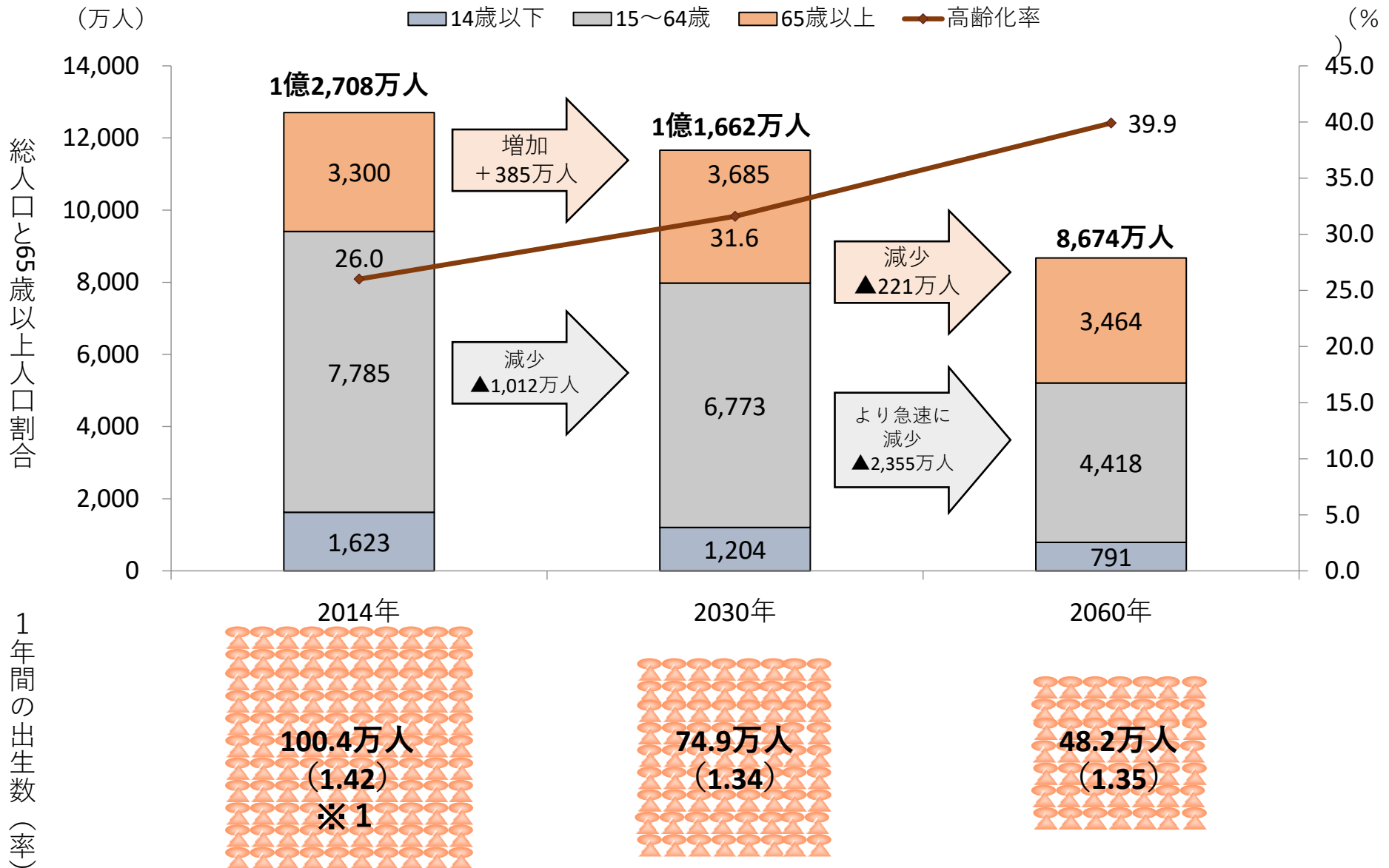
社会福祉法人ゆうゆう理事長
北海道医療大学 客員教授
大原 裕介

日本の長期的な人口推移



(資料) 国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」(1846年までは鬼頭宏『人口から読む日本の歴史』(講談社, 2000年), 1847～1870年は森田優三『人口増加の分析』(日本評論社, 1944年), 1872年及び1900年は内閣統計局「明治五年以降我国の人口」)、1920～2015年は総務省統計局長期時系列データ(「国勢調査」「人口推計」等)、2016年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(平成29年推計)。なお、資料に数値のない年次は、直線補間により計算している

今後の人口構造の急速な変化



(出所) 総務省「人口推計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)：出生中位・死亡中位推計」
 (各年10月1日現在人口) 厚生労働省「人口動態統計」※1 出典：2014(平成26)年人口動態統計

人口動向の確認

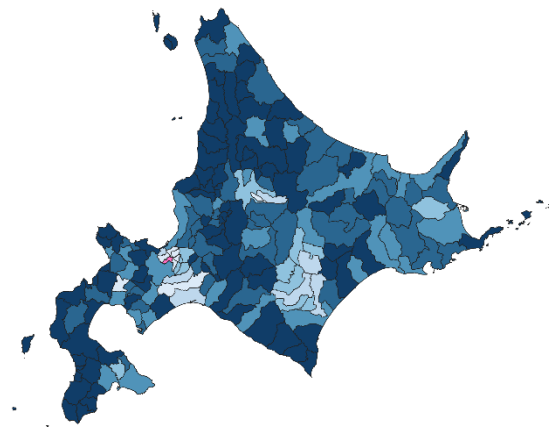
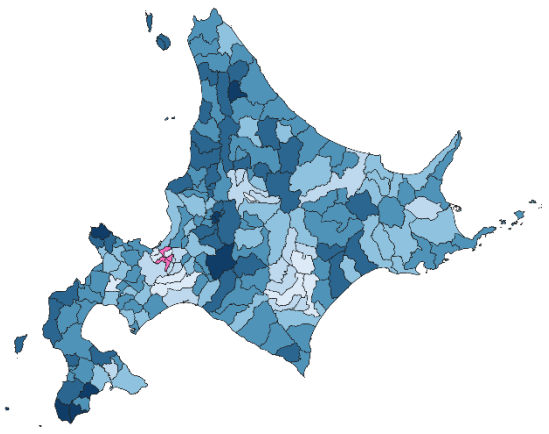
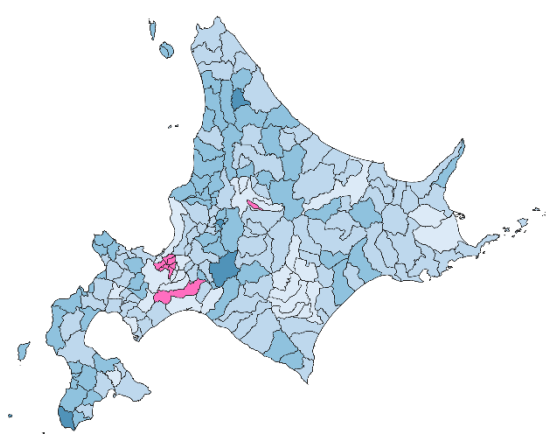
○北海道の人口は、538万人（2015年）から400万人（2045年）に、約25%減。
 ○2045年には、45%の自治体で、人口が半減以上。

2015年を100とした時2045年の人口指数

【2025年】

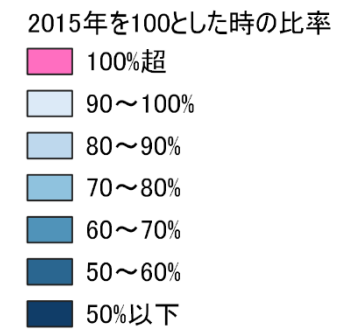
【2035年】

【2045年】

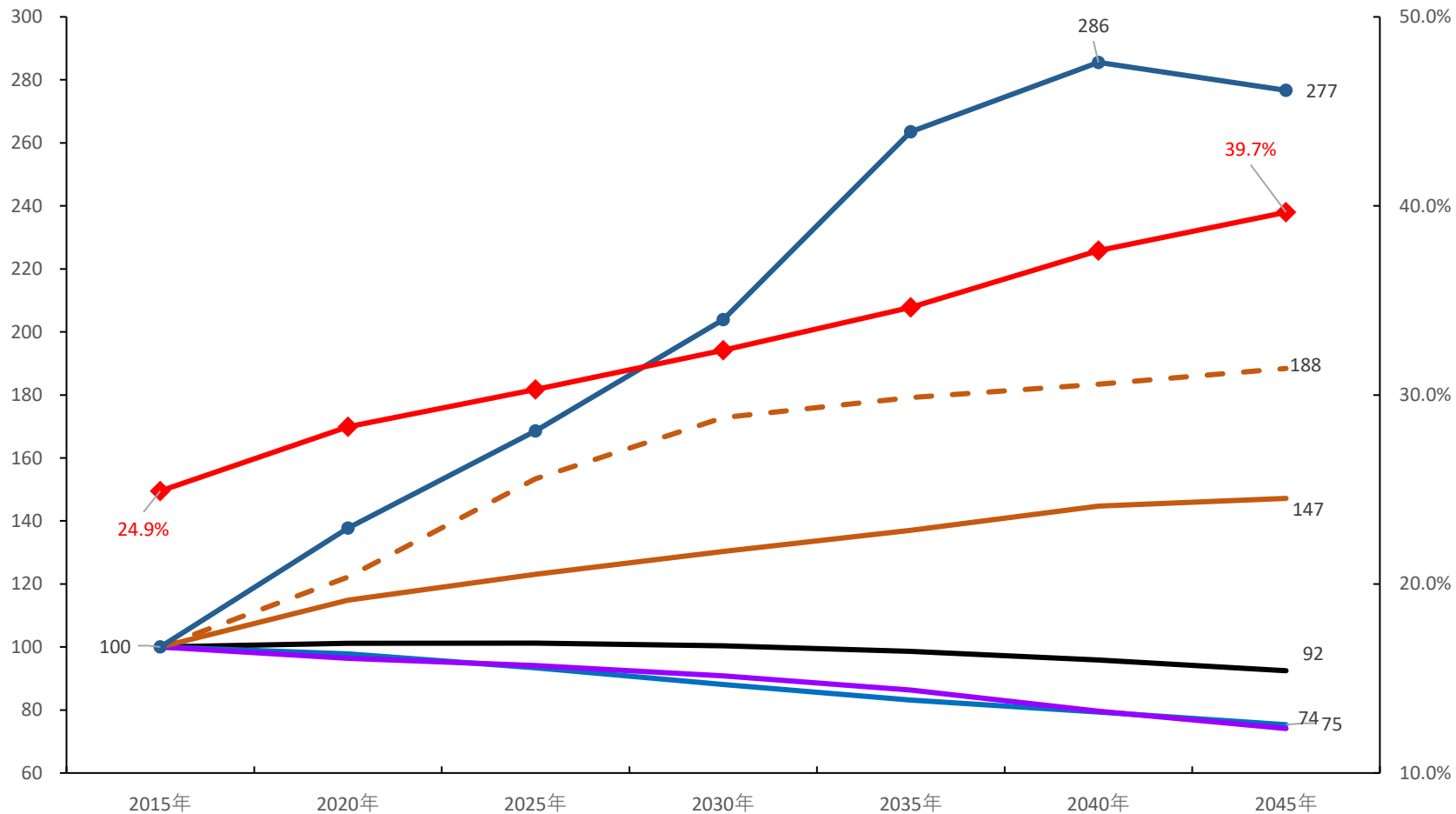


【比率別 道内市区町村数】

分類 (対2015年比)	R7(2025)年		R17(2035)年		R27(2045)年	
	市町村数	割合	市町村数	割合	市町村数	割合
100%超	8	4.3%	4	2.1%	1	0.5%
90~100%	27	14.4%	10	5.3%	8	4.3%
80~90%	89	47.3%	18	9.6%	7	3.7%
70~80%	60	31.9%	38	20.2%	13	6.9%
60~70%	4	2.1%	72	38.3%	28	14.9%
50~60%	0	0.0%	38	20.2%	46	24.5%
50%以下	0	0.0%	8	4.3%	85	45.2%
全体	188	100.0%	188	100.0%	188	100.0%



札幌市の将来人口推計



— 総数 — 0~14歳 — 15~64歳 — 65歳以上 - - 75歳以上 —●— 85歳以上 —◆— 高齢化率 (右軸)

各制度等における複合的課題等②

(介護保険制度(桑名市地域包括支援センターの調査を例に))

令和元年6月13日
第3回 地域共生社会推進検討
会 資料

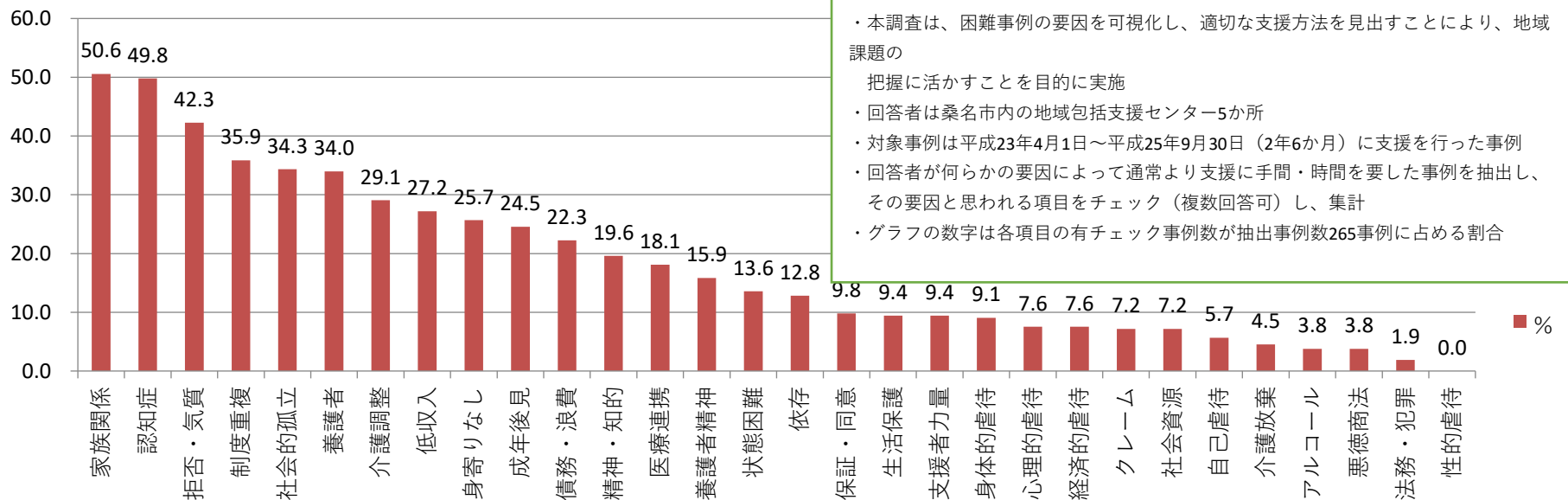
- 地域包括支援センターにおける困難事例(何らの要因によって通常より支援に手間・時間を要した事例)の要因を調査。
- その調査結果によれば、
 - ① 家族関係、認知症、拒否・気質等多様な要因が挙げられるとともに、
 - ② 1事例あたり**平均5.4項目の要因**(抽出事例265事例に対し要因項目1,437項目)となっており、複数の要因が複雑に絡み合い、事例への対応をより困難化している状況が見られる。
- また、調査結果から、地域課題として、家族、親族、地域との関係が希薄で支援者の不在の事例が困難化している状況等(※)が見えてきている。

(※)調査結果から見てきた地域課題

- ①家族、親族、地域との関係が希薄で支援者が不在の事例が困難化している、②支援にあたる家族、親族の不在は、医療同意、身元保証、身元引受で支障をきたしている、③支援にあたる家族、親族の不在に本人や養護者の認知症、精神疾患、拒否・気質等がある、④複数の要因が絡み合っ事例をより困難化させている、⑤解決には経済状況の改善、制度の重複利用、法律職との連携等、専門外の支援が必要、⑥通常の支援では経験しない分野の課題、支援担当者が明確でないグレーゾーンの存在、セーフティネット機能の発動、限られた時間での対応等、少数でも難易度の高い事例がある

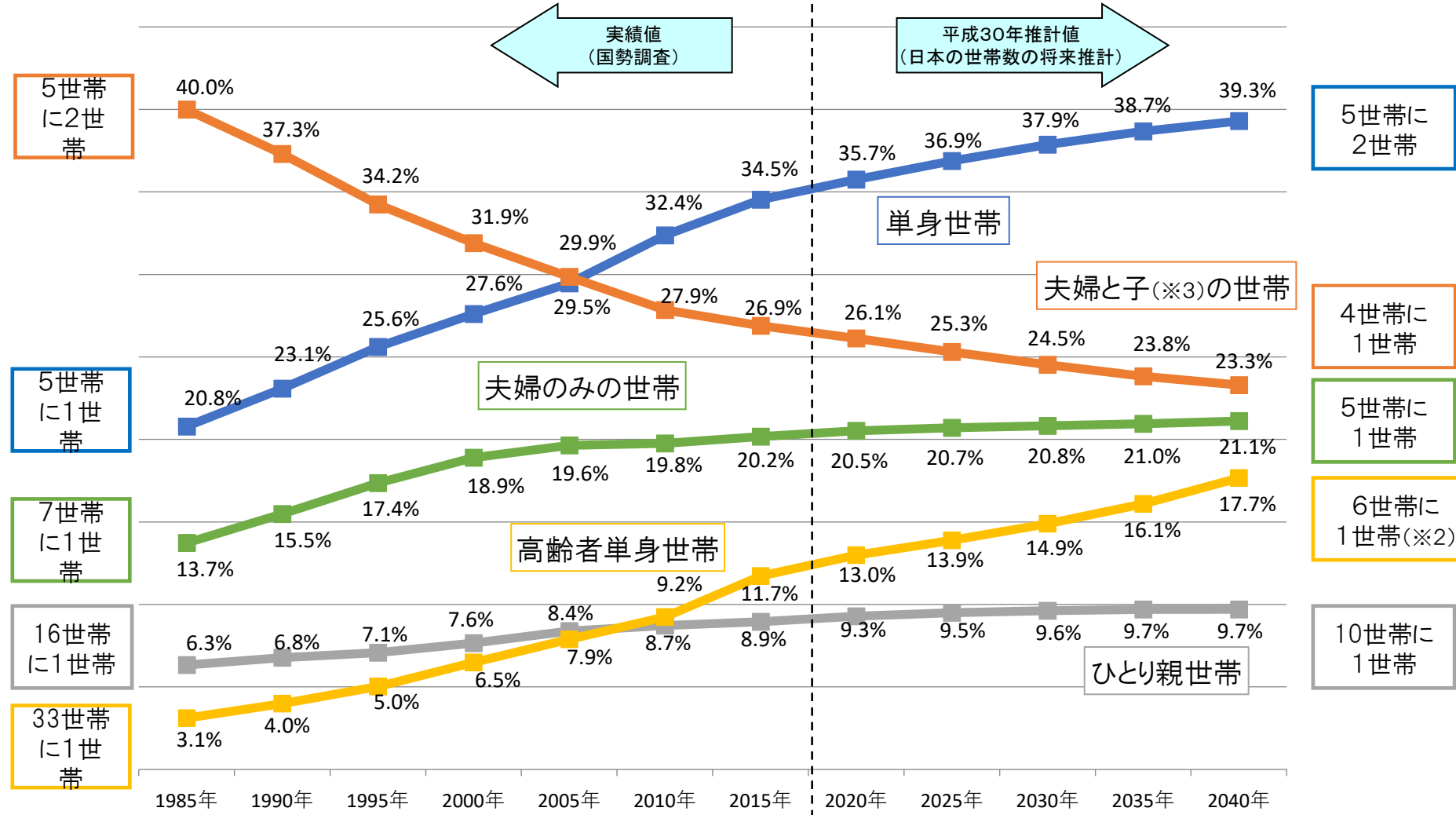
桑名市における困難事例要因調査結果 ～細分類項目別～

(2013.11.1調査)



世帯構成の推移と見通し

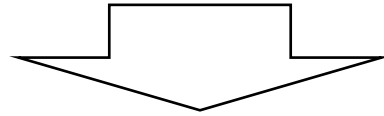
○**単身世帯、高齢者単身世帯(※1)、ひとり親世帯ともに、今後とも増加が予想されている。**
 単身世帯は、2040年で約4割に達する見込み。(全世帯数約5,333万世帯(2015年))



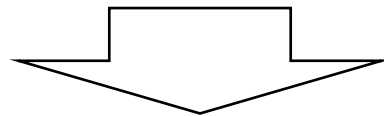
(出典) 総務省統計局「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計(全国推計)(2018年推計)」
 (※1) 世帯主が65歳以上の単身世帯を、高齢者単身世帯とする。
 (※2) 全世帯数に対する高齢者単身世帯の割合はグラフのとおりだが、世帯主年齢65歳以上世帯に対する割合は、32.6%(2015年)から40.0%(2040年)へと上昇。
 (※3) 子については、年齢にかかわらず、世帯主との続き柄が「子」である者を指す。

「地域共生社会の実現」を掲げた背景

- 血縁、地縁、社縁といった共同体機能の低下
- 個人や世帯が抱える課題の複合・複雑化



○市町村全体で、個人や世帯の相談を包括的に受け止め、複数の支援機関のチームによって複合・複雑化した課題への対応や、地域とつながり多様な社会参加を実現していく体制を築いていくことが必要。



○それぞれが抱える困難・属性や「支え手」「受け手」という関係を超え、一人ひとりが望む社会参加を叶える。

地域共生社会とは

◆制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、**住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会**

支え・支えられる関係の循環 ～誰もが役割と生きがいを持つ社会の醸成～



- ◇居場所づくり
- ◇社会とのつながり
- ◇多様性を尊重し包摂する地域文化

- ◇生きがいづくり
- ◇安心感ある暮らし
- ◇健康づくり、介護予防
- ◇ワークライフバランス

すべての人の生活の基盤としての地域

地域における人と資源の循環 ～地域社会の持続的発展の実現～

- ◇社会経済の担い手輩出
- ◇地域資源の有効活用、雇用創出等による経済価値の創出

- ◇就労や社会参加の場や機会の提供
- ◇多様な主体による、暮らしへの支援への参画

すべての社会・経済活動の基盤としての地域



農林



環境



産業



交通



北海道 5市町村・東京都文京区における事業展開

当別町

法人本部の所在地

当別町・北海道医療大学と連携のもと、住民同士が支え合いによる共生型地域福祉の事業

江別市

江別大麻エリアで、重度障害児者の地域生活支援システムの構築及び商店街活性化事業

苫小牧市

指定管理による地域共生型拠点と図書館を融合させた交流サロンと社会的サポートが必要な子どもの第3の居場所事業

岩見沢市

岩見沢市と連携のもと、空き店舗の常設ギャラリーの展開など障害者の芸術文化推進事業

和寒町

特別養護老人ホーム建て替えを契機とした福祉を越境した「まちづくり」事業の和寒町・地域住民・設計事務所と協働によるプランニングおよび推進事業



東大U – gohan



北海道お米と汁
gohan
東大正門

北海道お米と汁
dog



コロッケ
野菜の豚汁付
¥680

米とザンギ
¥680

米と魚

米と魚



厚田町総合福祉センター

ゆうゆう24

北海道医療大学ボランティアセンター

〒114 厚田町

大学生によるインフォールムサービスの展開

障害児者支援からあらゆる住民を対象とした共生型支援への発展

- 空き店舗を活用したボランティアセンター
- 当別町における障害児者社会資源が不足
- 学生任意レスパイトサービス事業の設立
- 地域を社会資源とする事業展開
- 障害児者支援から共生型支援への発展
- サービス受益者がサービス提供者に
- 0歳から96歳までのサービス
- 住民が住民を支えるシステムの創設
- 3年間の活動を経てNPO法人を起業



当別町共生型地域福祉ターミナル
当別町ボランティアセンター



当別町 地域福祉ターミナル

H20年～

- 

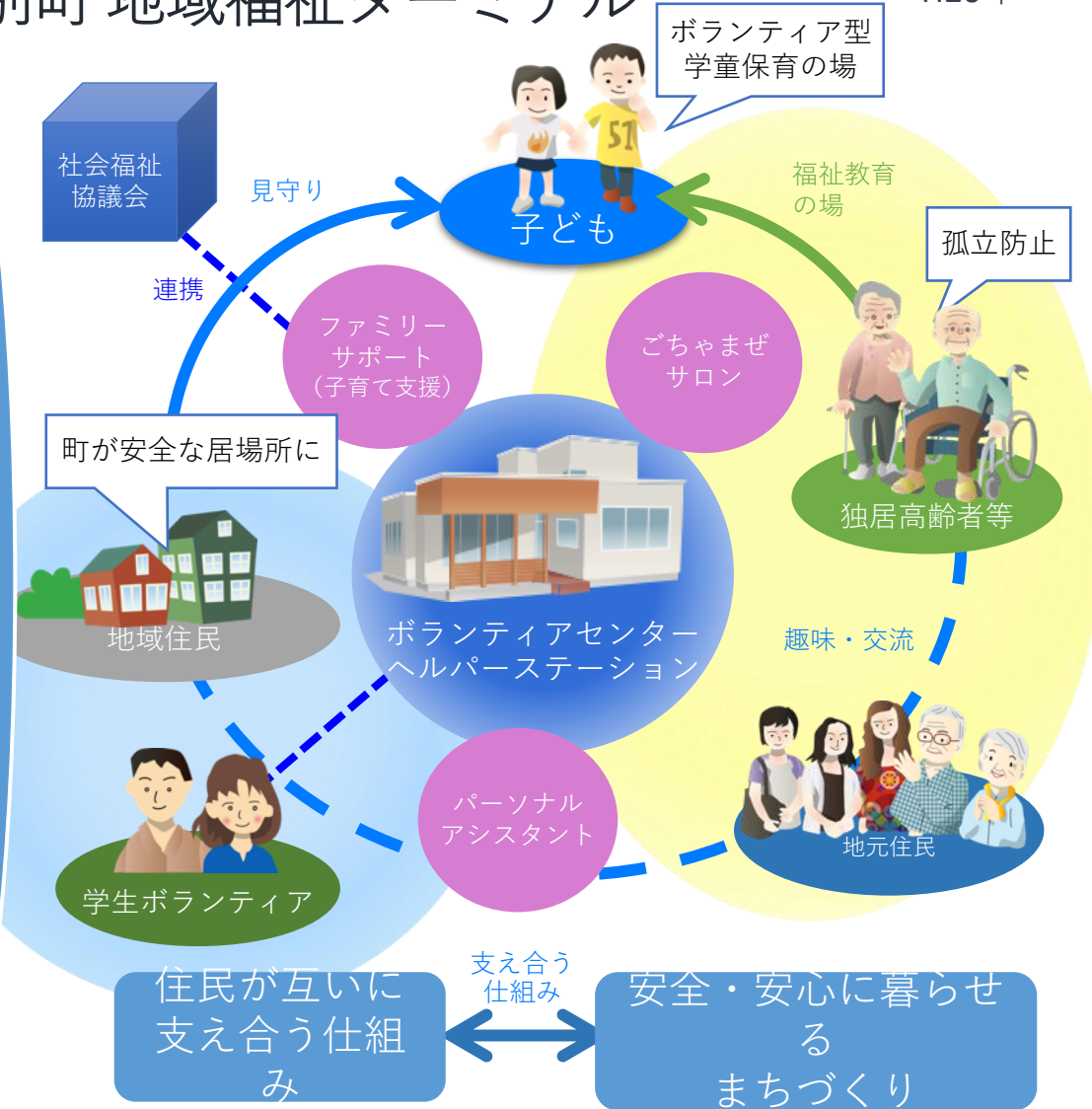
こども (18歳未満)
気になる児童の
ケース対応
- 

要介護者
(65歳以上高齢者)
- 

障がい者
(18歳以上)
- 

生活困窮者
ひきこもり、失業者等

ワンストップ窓口



◎子育て支援の仕組みづくり／育児の援助を受けたい方と育児の手助けができる方が、地域の中でお互いに育児を支え合う会員組織「ファミリーサポート」を作り継続して運営し、地域の子育てを応援しています。



◎高齢者の介護予防支援／子供～高齢者まで世代を超え障がいの有無を超え交流する場「ごちゃまぜサロン」。町民が自ら運営する地域活動で、孤立高齢者の地域との接点、生きがいがづくり、介護予防にもなっています。



◎住民相互の生活支援／公的制度ではカバーできない通勤や買物支援等を行う有償ボランティア制度「パーソナルアシスタント」を創設。ヘルパー3級程度のカリキュラムを設け、地域の支え合う仕組み作りに取り組んでいます。

- ・ボランティア情報を一元管理、地域福祉を支え推進する。
- ・子ども達から一人暮らし高齢者まで地域交流の場を提供する。
- ・住民が互いに支え合う仕組みづくりを通して地域を活性化する。

地域共生型パーソナルアシスタント

制度外のサービスに応えるための住民が住民をサポートする仕組み

当別町オリジナルの養成講座

27.5時間の講習 + 実習

分野横断的に幅広い分野を学ぶことができ、
担い手を養成するオリジナル講座を開発

講習

子どもから高齢者、障がい、生活困窮者に関わらず、幅広い範囲の知識を身につけられる内容。

実習

これから実際に関わるであろう方たちと触れ、体験し、講義内容の理解が一段と増した様子。











和食の味









農業と林業と福祉







あらゆる住民の居場所となる農業とは



私たちの農業のステークホルダー

子どもたち

高齢者・認知症の人

ひきこもりの人

生活困窮者の人

障害のある人

大学生

農業者

デイサービスを拒否する若年性認知症の方の物語

- ・ 若年性認知症になったことによって仕事を失い、家族との縁も切れる
- ・ デイサービスを勧められるも「こんなところにいたくない。もっと働きたい」と希望
- ・ 表情も硬く、心を閉ざしている様子
- ・ 職人として父としてのぽっかりを埋めることができるのか？



地域の人たちと営む農業が居場所となっていく

地域に暮らす農業サポーターの方を仲間に「農業をみんなでやるのが好き」
参加されるたびに「今が一番楽しい！」作業が遅くてもそばで気にかけてくれる



居場所が彼をリカバリーしていく

- ・ 農作業をしている表情がどんどん柔らかく
- ・ いつもYシャツを着てこられるように
- ・ 彼を中心に輪ができ、帰り際にみんなに手を振って挨拶される



はたらくのその先に

工賃は、大好きなお酒とタバコに
お仕事中の写真を娘さんに送ると父に会いたい
Yさんが本人らしく暮らすとは



商店街をデザインする



大麻銀座商店街

大塚
大塚
大塚





火器
EXTINGUISHER







ブルマン

軽食喫茶

コヒーショップ

かふえのこじん
えぞりす亭

アヒルの
たまご

アヒルのたまご



図書館をデザインする

苫小牧市東開文化交流サロン

Tokai Regional Cultural Exchange Center

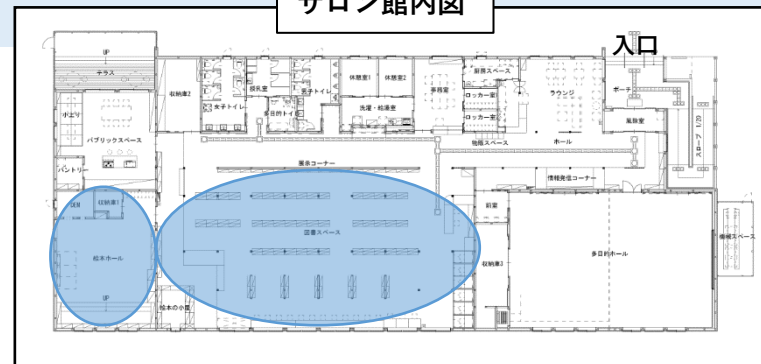
「苫小牧市東開文化交流サロン」は
図書機能と福祉拠点機能を兼ね備える
苫小牧市の公共施設としては初となる
共生型地域福祉拠点です。



【図書スペース・絵本ホール】

- 約 **2万8千冊** を蔵書予定
- 布絵本、大型絵本など含め約5千冊を収蔵予定の市内屈指の「**絵本ホール**」
- ブック・コーディネーター内沼晋太郎氏（NUMABOOKS代表／株式会社バリューブックス取締役）をアドバイザーに迎え、「**能動的で多様な図書スペース**」を目指す

サロン館内図



【カフェ店舗の運営】

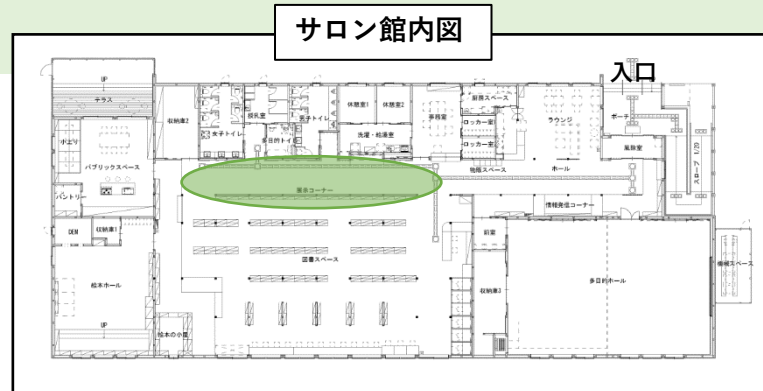
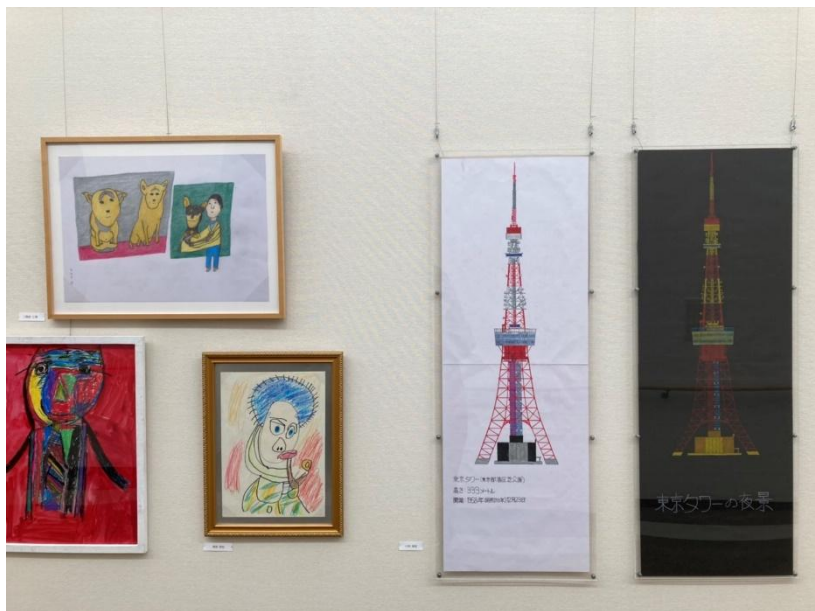
パーラー 東開町 2丁目



- 札幌のメパフェ有名店「**パフェ佐藤**」監修による本格スイーツメニューとドリンクを提供
- **就労支援事業所**として障がいのある人が働く場所

【ギャラリースペース】

- 入館者が行き交うストリート沿いのギャラリースペース。真白な壁面が、人が生み出す渾身の、多様な表現に彩られる。新たな価値観との「出会い」の場。



【多目的ホール】

【パブリックスペース】

- 式典・研修等に適する収容量と充実の設備を有する多目的ホール（193㎡）
- キッチンや小上がり、パントリーなど多機能充実でリラックスして交流できるパブリックスペース

サロン館内図



対象となる特別養護老人ホームとデイサービスの老朽化



<特別養護老人ホーム芳生苑>

本部棟・東棟(50床) 昭和 51 年建設 **46年経過**

西棟(50床) 昭和 55 年建設 **42年経過**

- ・電気床暖房の電熱系統の不具合
- ・給水給湯管の腐食
- ・耐力壁構造のためレイアウトの変更不可能
- ・ショートステイ用居室(個室 5 室) 平成 11 年度整備
- ・東棟の存廃によっては改築計画の中に

<デイサービスセンター健楽苑>

- ・平成 6 年建設 **28年経過**
- ・利用者の重度化によりトイレの全面改修の必要性
- ・経年劣化による浴槽壁面の大規模改修

芳生苑等の大規模改修

年度	主要内容	金額 (千円)	財源内訳		
			起債	基金	一般財源 (町)
平成27年度	芳生苑東棟居室改修14室、診療室改修	23,152		23,152	
	健楽苑外壁改修	18,468		18,468	
平成28年度	芳生苑西棟居室改修15室	20,714	20,700	14	
平成29年度	芳生苑空調整備・ナースコール更新	18,360	9,000	9,360	
	健楽苑空調整備・和室床改修	11,124	5,400	5,724	
平成30年度	芳生苑特別浴室改修・介護浴槽設備更新	13,824	6,900	6,924	
令和元年度	芳生苑給湯設備改修工事(東棟・管理棟)	9,234		4,920	4,314
令和2年度	芳生苑給湯設備改修工事(西棟)	8,580	8,500		80
	計	123,456	50,500	68,562	4,394

北海道新聞

故郷の特養 閉鎖の危機 高齢者「どこに行けば」＜「介護難民」時代＞上

🔒 会員限定記事

2023年11月16日 23:00(11月21日 18:28更新)

📌 あとで読む

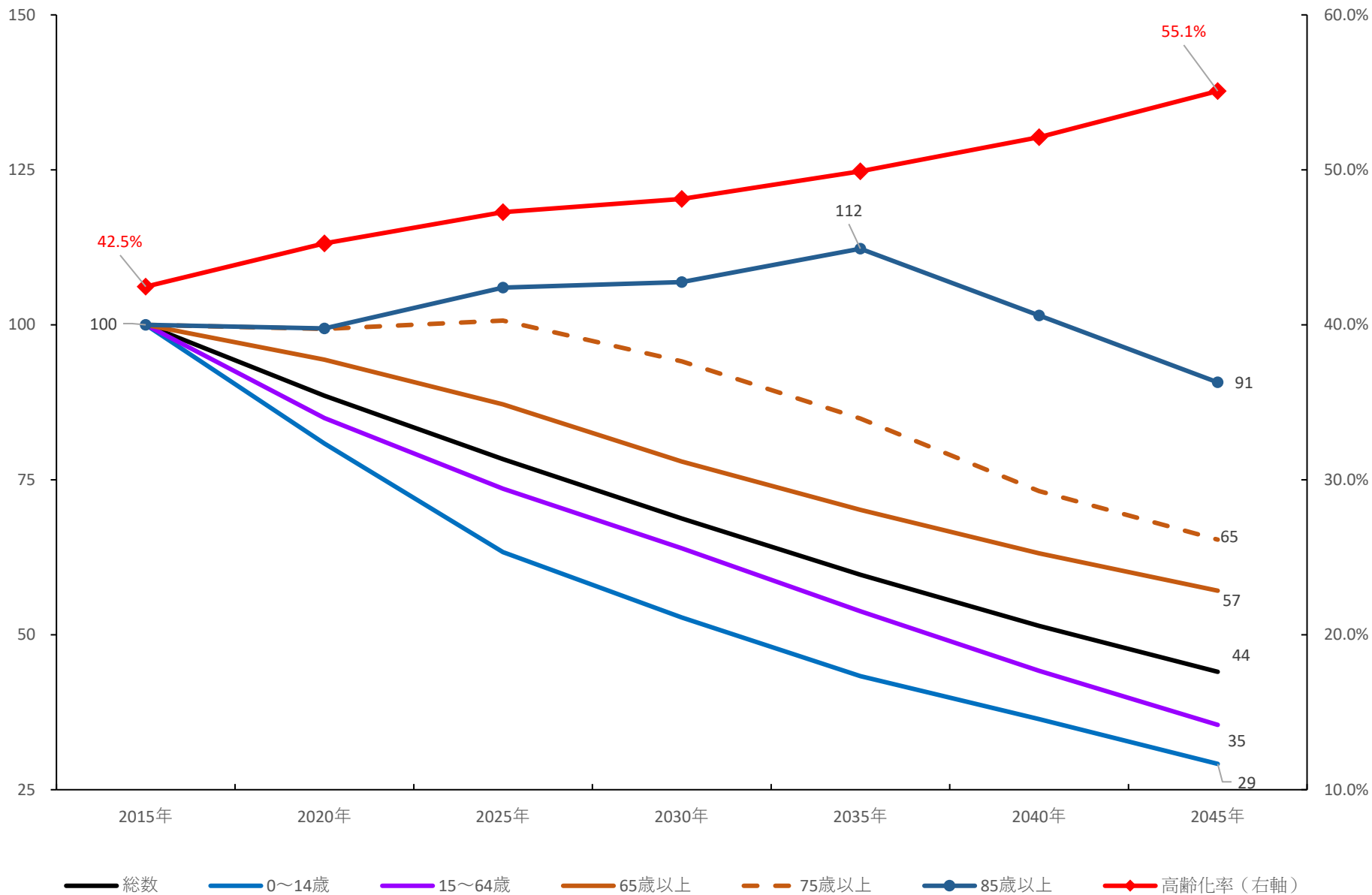


地元で最期を迎えられるはずだった。

留萌管内遠別町出身の鍋島奉子（ともこ）さん（96）は今年2月、町内唯一の特別養護老人ホーム「友愛苑」を出て、約200キロ離れた札幌の特養へ移った。



和寒町将来人口推計



まちの人たちの対話・想いに触れる

ふくしのまちづくりプロセス



和寒町ふくしのまちづくりサミットの開催

和寒町ふくしのまちづくりプロジェクトのスタートアップとして、専門家やゲストをお招きし、「和寒町ふくしのまちづくりサミットを開催

令和5年6月18日 延べ参加者数 100名

実施内容

- ・プロジェクトの意義と社会背景をテーマにした基調講演、福祉×建築の対談を実施
- ・「みんなで和寒町をデザインする」をテーマに和寒町の魅力について再発見するワークショップ

サミット参加者からの感想（一部抜粋）

- ・介護や子育てを分けて考えるのではなく、一緒に考えれば良いと気づいた
- ・自分とは違う世代の人の話を聞くことで、和寒の新たな魅力に気づくことができた
- ・福祉の箱物を作るのではなく、町を作るということ。勉強になった。
- ・コミュニティーを豊かなまちづくりが実現できるよう自分も頑張りたい

サミットを開催して

- ・本プロジェクトは、「特養建替」が喫緊の課題をアジェンダとした「まちづくり会議」などのフォーラム等が開催されてきた経緯から、地域のなかには介護が推進されるプロジェクトとの認識が存在していた。

*フォーラム開催によって、参加者のなかに特養建替のみ検討するものではないとの認識が芽生えた。

が決まってい
万社。廃業す
会社をたたく
が失われる可
居住者にとつ





和寒町ふくしのまちづくりLABの開催

町民の意向反映を軸とした「ふくしのまちづくり基本構想」および「中核となる福祉施設の基本計画」の策定に向けて、様々な立場、職種、年代の方による意見交換から、まちづくりを研究すること、町民が主体的性を持ってまちづくりに関わる意識と行動の醸成を目的として開催

令和5年7月20日～22日 延べ参加者数 81名

* 地域福祉・保健・教育、子育て、農業者、観光協会、商工会等、分野世代ともに幅広い参加者

実施内容

- ・「特養を社会資源とした取り組み」及び「地域共生の取り組み」をテーマに事例紹介
- ・和寒町でこんなことができる、こんなことをしたいなをテーマにワークショップを開催

まちづくりLABを開催して

- ・サミットとは違い、子育て世帯や教育、農業者や観光協会などの多彩な分野の参加があった。
- ・サミットはいわゆる「いつも参加する人」がメインであったが、あらたな参加者層が見受けられた。
- ・学びとワークショップをセットにした開催内容であったが、概ね満足度は高い
- ・今後も継続して開催して欲しい、継続的に参加するとの声もアンケートから明らかになった
- ・関心度が高く、熱心な町民であるとしても、人口に占める参加者の割合は大きいものと評価できる



ヒアリング調査実施について

ヒアリング実施（サミット終了後の6月～）

- ・小学生（5年生）・中学生（2年生）：認知症サポーター養成講座に合わせて実施
- ・障害児の保護者に対するヒアリング調査
- ・特別養護老人ホーム「芳生苑」職員
- ・民間介護事業者2者

* 農業者、商工業者にはイベント等を通じて、意見交換を実施

* 不足する情報については、和寒町役場職員に対するヒアリングを実施

* 和寒町役場との打ち合わせから、まちづくりLABをヒアリングに位置付け、深掘りが必要なヒアリングについては、今後、個別・団体等に対するヒアリングを実施

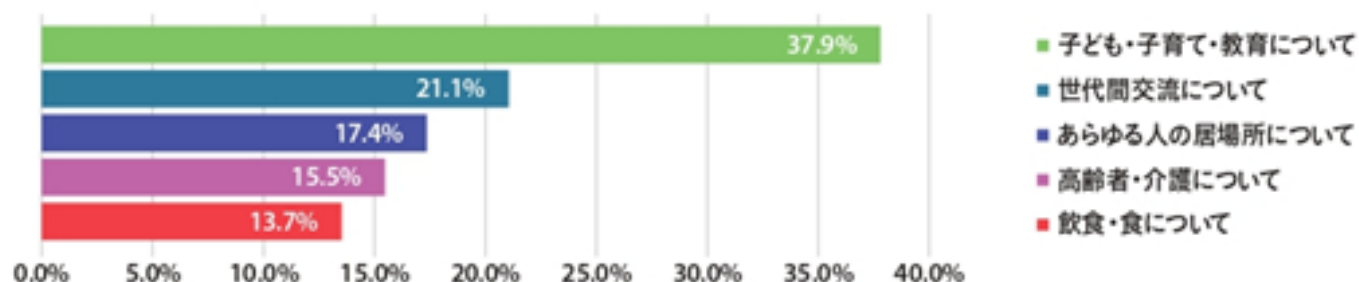
* 新たな拠点の運営事業者となる可能性の高い「芳生苑」の職員に対するヒアリングを重視し、幹部職員16名に対する個別ヒアリング及び51名の職員に対する意見交換会を実施する。

想いや声を紐解き見えてきたこと

和寒町で「こんなことできる」「こんなことできたらいいな・したい」ことについてご意見をいただき、161個の意見が集まりました。

この意見を「子どもに関わること」「世代間交流」「居場所」「高齢・介護」「食」「サービス」「観光」「余暇・文化」「仕事」「障がい」「その他」のいずれかに分類しました。

参加者の皆さんの年齢や職種がバラバラの中で「子ども」のことに関する意見が4割あることは特筆すべき点であり、本プロジェクトでも重視すべき点です。



ふくしのまちづくりラボで頂いたご意見をご紹介します

子ども・子育て・教育について

- ・子どもがのびのび過ごせるようにしたい。
- ・子どもや若者が多いまちにしたい。
- ・子どもと遊びたい。

世代間交流について

- ・年代関係なく関われるサードプレイスが欲しい。
- ・高齢者も子どもも、障がいのあるなしに関係なく集まれる場が欲しい。

あらゆる人の居場所

- ・イベントごとでなくても、毎日のように集まれるようになりたい。
- ・子どもの面顔をみたり一緒にご飯をたべたり、隣人とのゆるやかな交流をしたい。

第6次和寒町総合計画

住民アンケート調査を見つめる

第6次和寒町総合計画住民アンケート調査は、和寒町が総合計画を策定するにあたって、令和元年12月に町民1000名を対象にアンケート調査を実施し、回答者483名のご意見をまとめたものです。

目指すべきまちの将来像を描くとき、
ふさわしいキーワード

安心・安全 47.4%

思いやり 32.9%

生きがい 26.9%

最も多く挙げたキーワードは、「安心・安全」でした。続いて、「思いやり」「生きがい」の順に多いです。町民のみなさんが「人」を大事にし、人と人の結びつきや支え合い、人が輝き続けることをイメージしていることが傾向として表れています。

社会福祉・保健医療などの
分野で重要と考えること

病院などの医療環境 65.8%

高齢者への支援
施設の整備 47.8%

障がい者(児)への支援 47.4%

医療環境についての意見が最も多いのは、医療体制が変わったことが大きく影響していると想定されます。また、小さな自治体では、このような問いで「医療」を重視する傾向があります。注目すべきは、「障害者(児)への支援」を重視する意見が3番目に多いことです。今後検討すべき重要な視点と考えます。

和寒町を転出する理由

医療・福祉面での不安 72.2%

交通が不便 72.2%



第6次和寒町総合計画住民アンケート調査にて、「今の場所に住み続けたい」「町内の別の場所に移りたい」「住み続けたいが、町外に移ることになる」と回答した人の割合。

ふくしのまちづくりラボ

ワークショップのご意見を見つめる

7月20-22日に開催されたふくしのまちづくりラボでは、総勢81名の方にご参加いただきました。皆さんには、「したいこと・やりたいこと」についてご意見をいただき、161個の意見が集まりました。この意見を、「子どもに関わること」「世代間・交流」「居場所」「高齢・介護」「食」「サービス」「観光」「余暇・文化」「仕事」「障害」「その他」のいずれかに分類し、どの種類の意見が多いのかを円グラフに示しました。

ご意見の分布は、以下の通りになりました。

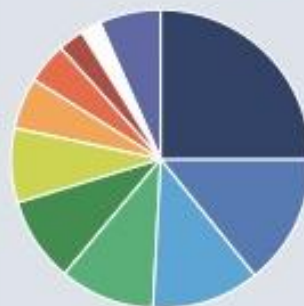
子ども・子育て・教育 37.9%

世代間交流 21.1%

あらゆる人の居場所 17.4%

高齢者・介護 15.5%

飲食・食 13.7%



まちづくりラボで頂いたご意見をご紹介します

子ども・子育て・教育
について

子どもがのびのび
過ごせるようにしたい。

子どもや若者が多い
まちにしたい。

子どもとあそびたい

世代間交流
について

年代に関わらない
サードプレイス
が欲しい。

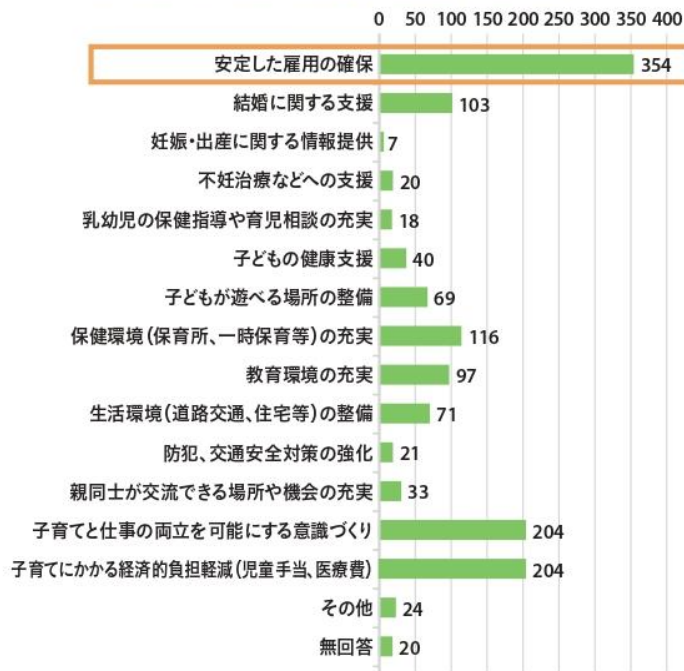
高齢者も子どもも、障害
のあるなしに関係なく集
まれる場が欲しい。

あらゆる人の居場所
について

イベントことでなくても、
毎日のように集まれるよう
になりたい。

子供の面談をみたり一緒に
御飯をたべたり、隣人との
ゆるやかな交流をしたい。

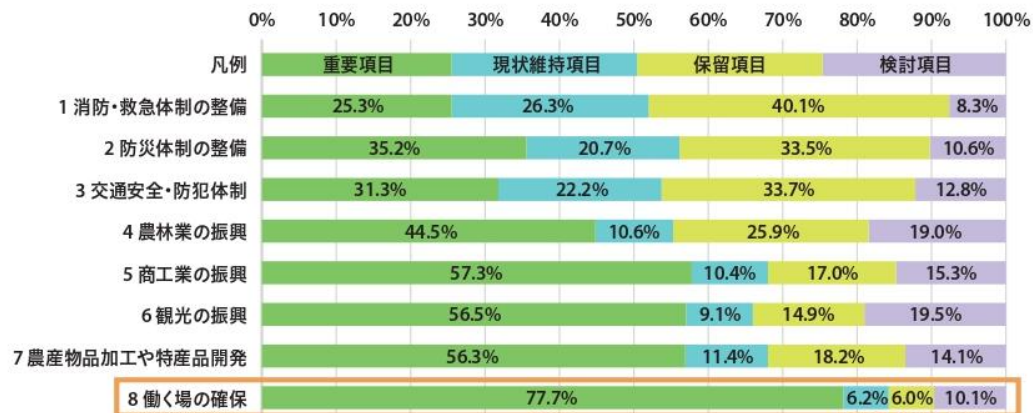
■ 少子化・人口減少対策として有効と考えること



■ 町内移動・転出をする理由



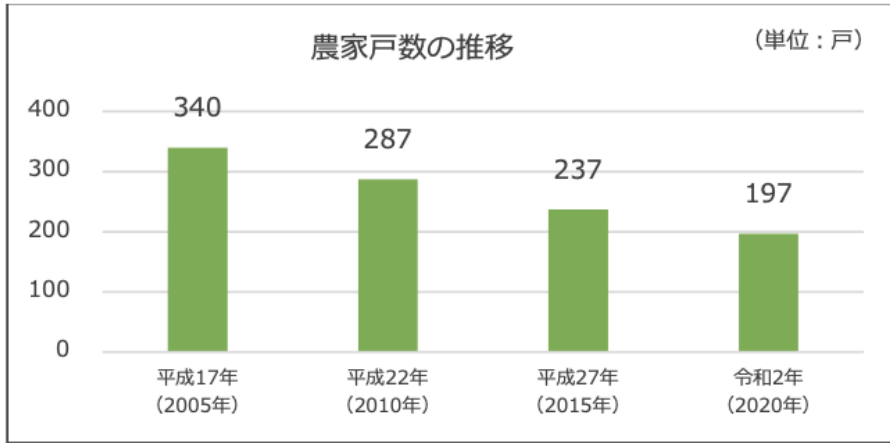
■ 消防・防災・生活安全・産業について



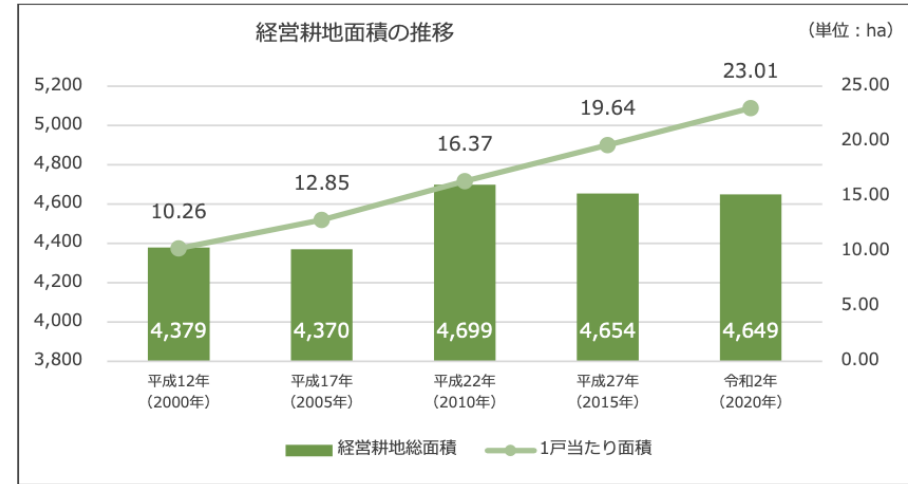
マッチング機能として、岡山県奈義町で取り組んでいる「しごとコンビニ」を参考としており、そこでは、少しの時間でも働きたい人と、働いてほしい人をマッチングするハブ機能があります。

子育て世代の方やフルタイムはちょっと苦手という方にも、ゆとりの共有スペースで一休みしながらお仕事に取り組んだり、子どもの一時預かりなどがあると助かります。

農業の現状と課題



資料：第5次 和寒町農業・農村振興計画より



資料：第5次 和寒町農業・農村振興計画より

農地の流動化については、農業政策の転換等による先行き不透明感、農業者の高齢化や担い手不足を背景に、今後、経営規模の縮小を図る農業者や離農する農業者が増加すると考えられ、その農地のなかには、引き受け手のない農地が増加することが懸念されます。

労働力の確保については、規模拡大や高収益農産物の導入による農業経営の複合化や農業従事者の高齢化により労働力が不足しており、人材派遣会社を活用する動きも出てきています。

基本理念と方針

5つのビジョン

基本理念・基本方針について

- 基本理念・基本方針に策定について、「新たな施設の機能候補（案）」作成の際に参考としたヒアリング調査やふくしのまちづくりラボでの意見、また第2回の和寒町ふくしのまちづくりサミットでのワークショップの住民の意見に基づき作成するものとする。
- 和寒町第6次総合計画等の各種計画の住民アンケートも作成にあたって参考する。

基本理念（案）

共愉するまちを創造する

基本方針（案）

- （1）自分たちで考え自分たちで行動する。
- （2）お互いを想い、楽しいまちづくりを追求する。
- （3）誇れるまちとなる実践を展開する。
- （4）誰しものが安心して住み続けることができる地域福祉を展開する。

基本理念を実現するための5つのビジョン

- （1）最期まで暮らし続けることができる特別養護老人ホームの体制構築
- （2）あらゆる住民が安心して在宅生活を送ることができる在宅支援サービスの体制構築
- （3）子どもたちが大切にされる機能の構築
- （4）あらゆる住民が活躍できることを実現する「しごと創出」機能の構築
- （5）和寒町の特色である農業・食文化を推進する機能の構築

新たな施設の5つのビジョン

新たな拠点の機能（案）を検討するにあたり、これまでの町民のニーズのヒアリング及び和寒町の社会資源等の状況を踏まえ、下記5点を重点としたいと考えます。

- (1) 最期まで暮らし続けることができる特別養護老人ホームの体制構築
- (2) あらゆる住民が安心して在宅生活を送ることができる在宅支援サービスの体制構築
- (3) 子どもたちが大切にされる機能の構築
- (4) あらゆる住民が活躍できることを実現する「しごと創出」機能の構築
- (5) 和寒町の特色である農業・食文化を推進する機能の構築

外観イメージ図

共生型通所介護

ファーム広場に面し、創作と隣接することで農作業からものづくりまで様々なケアの活動ができます。

食の拠点

特養、共生型通所介護の食事をつくる厨房、地域の方がテイクアウトもできるようなカウンターを想定しています。

駐車場

北と南にそれぞれ40台分の駐車場を設けます。

ファーム広場

子育て支援センター、かたくり荘からの動線に隣する南東に位置し、市街地の中でありながら農を介したコミュニティをつくります。

創作 (就労継続支援 B 型)

集中して作業のできる「作業スペース」と共有部に開かれ活発に活動ができる「ワークスペース」によって居場所を自由に選べるものづくりスペースです。

仕事センター

施設2階に位置し、勉強や中期模セミナーや町内外の住民の方がカウンターでリモートワークを行うことができるスペースです。

中央広場

季節を問わず約60人ほどが集まることのできる屋内広場。冬期でもイベントなど様々な活動を行うことができます。

特養ユニット

1ユニットあたり15室の個室と小さなリビングとダイニングが分譲する共用部による計画です。

エントランス広場

メインエントランスに面した芝生の屋外広場。夏のイベントなどにも活用可能な広々としたスペースです。

歩車分離について

敷地北側は庁舎などのまちの中心地、南側は子育て支援センターやかたくり荘から、それぞれ徒歩と車のアクセスが考えられるため、南北に駐車場と豊かな歩行者空間である連絡と広場を計画しました。

teco

一級建築士事務所 Tecco
東京都知事登録 第111.0053 東京都台東区浅草
T: 03.5834.8313 / F: 03.5834.8314

project 和寒町中核となる福祉
基本設計業務

date: 2025.02.28.

drawing title: scale

計画説明書⑤

project no.: draw

23_05 A

一級建築士 国土交通大臣 登録
第34185号
金野千



内観イメージ：特養居室



内観イメージ：特養ユニット共用部

teco

一般建築士事務所 teco 株式会社
 東京都知事登録 第62205号
 111-0053 東京都台東区滝草橋3-12-6
 T: 03-5834-8313 / F: 03-5839-2109

project
 和歌山中核となる福祉施設
 基本設計業務

date:
 2025.02.28.

drawing title: scale:

内観イメージ① -

project no.: drawing no.:
 23_05 A-21

一般建築士 国土交通大臣 登録
 第141851号
 会費 千圓



内観イメージ：中央広場



内観イメージ：食の拠点

teco

一般建築士事務所 teco 株式会社
 東京都知事登録 第62205号
 111-0053 東京都台東区浅草橋3-12-6
 T: 03-5834-8313 / F: 03-5839-2109

project
 和歌山中核となる福祉施設
 基本設計業務

date:
 2025.02.28.

drawing title: scale:

内観イメージ② -

project no.: drawing no.:
23_05 A-22

一般建築士 国土交通大臣 登録
 第141815号
 会野千恵



内観イメージ：ワークスペース



内観イメージ：創作（就労継続支援 B 型）

teco

一般社団法人事務所 teco 株式会社
 東京都知事登録 第62205号
 111-0053 東京都台東区浅草橋3-12-6
 T: 03-5834-8313 / F: 03-5839-2109

project
 和歌山中核となる福祉施設
 基本設計業務

date
 2025.02.28.

drawing title scale

内観イメージ③

project no. drawing no.
 23_05 A-23

一般社団法人国土交通大臣登録
 第141851号
 金野千恵

もうひとつの学校

1970年代のはじめは、全国で公害が大きな社会問題化し、高速道路が整備され、各地で土地ブームが起こり、東京の郊外でも宅地開発が急激に行われた時代だった。

この時代の子どもたちは町のなかでよく遊んでいた。そこは、子どもにとって、ものの見方、感じ方、考え方に大きな影響を及ぼす「もうひとつの学校」でもあった。

「もうひとつの学校」は、町のなかのそこここにあり、子どもたちはどんなあそびをするかによって自由にあそび場を決めていた。

「もうひとつの学校」の時間は緩やかに流れており、そこでの時間は「腹時計」や「日暮時計」だった。おとなたちも、大事に至るような危ない場所以外は子どもに入り込んであそんでいてもめくらじを立てるようなことをしなかった。

「もうひとつの学校」は、ドラマに満ちた子どもたちのコミュニティであった。そして、それはおとなたちの目に見守られた、地域社会のぬくもりとともにあった。

宮原洋一『もうひとつの学校』